



WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

2011~2012年度
国際ロータリーのテーマ
こころの中を見つめよう
博愛を広げるために
2011~2012年度
RI会長 カルヤン・ハネルジー

創 立 : 1980年(昭和55年)1月10日
会 長 : 高須 洋志
事 務 長 : 馬場 将嘉
クラブ広報委員長 : 関谷 俊征
例 会 日 : 毎週木曜日 PM12:30~
場 所 : ヒルトン名古屋

事 務 局 : 460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ヒルトン名古屋910号
T E L : 052-211-3803
F A X : 052-211-2623
M A I L : 2760_nagoya@mizuho-rc.jp
U R L : http://www.mizuho-rc.jp/

第1517回例会

~会員増強及び拡大月間~
クラブテーマ:「熱田の杜・友愛・気品」

2011年8月25日(木) 晴 第7回

司 会 : 西沢功晋会場委員
齊 唱 : 「日も風も星も」「四つのテスト」
ゲ ス ト : 市民キャビネット災害支援部会長 松尾道夫さん
市民航空災害支援センター長 竹田好孝さん
米山奨学生 楽怡さん
ビ ジ タ ー : 名古屋錦RC 寺西 正さん
江南RC 牧本哲一さん

副会長挨拶

吉木洋二副会長

皆さんこんにちは。本日は高齢者と口腔について話したいと思います。

近頃は何かにつけて枕詞のように高齢化社会といわれますが、実態はどんなものか復習してみましょう。昨年の秋の統計では65歳以上の高齢者人口は294万人で総人口に占める割合は23.1%。女性は4人に1人、男性は5人に1人です。これは世界1位です。

1991年金さん、銀さんがデビューした年には100歳以上の人口は3000人台、1970年までは300人台でしたが、現在は4万4千人余りになっています。団塊の世代が100歳を越える2050年にはどうなるでしょうか。100人の村が在るとしますと、5人が100歳以上、33人が65歳以上、10人が中学生以下、赤ちゃんが1人と統計上今のままで推移するとあります。

長生きできることそれ自体はおめでたいことですが、しかし健康で長生きである事が大切な訳で、不健康長寿で認知症や寝たきりで、オムツを付けて、経管栄養で命をつないでいるだけにはなりたくないと思います。平均寿命から健康寿命を引いた不健康寿命は8~10年と言われています。医療は健康長寿を目的としている訳です。

健康長寿を目指すには、適度な運動、メタボにならないための自己管理は勿論ですが、歯科と健康長寿に関係あるのか? 噛むこと、咀嚼能力が落ちると握力や平衡能力が低下することが分かっています。高齢者が寝たきりになるのは殆どが転倒、それも自宅においての転倒によって骨折することが原因と言われています。義歯を外すと姿勢の制御能力が低下します。また疫学調査によって口腔内状況が劣悪な高齢者ほど認知症の割合が高いことも分かっています。幼稚園児や小学生の疫学調査や動物実験によって噛む事と脳の働きの関係も分かってきました。

f-MRIを使って噛む事と脳の血液量を調べると随意運動に参与する脳の働きは、8020の老人と義歯を入れていない人を比べると大きな差があることが分かりました。食事をするという行動に脳の4分の1が働いているといいます。きちんと食べられるということは人間が生きるのに大変重要な事であり、具合の良い



ニコボックス

近藤茂弘ニコボックス委員長

- ・8月22日に85歳になりました。 **山田鎮浩さん**
- ・8月18日は家内の誕生日にきれいなお花をありがとうございます。 **岩田吉廣さん**
- ・8月14日は妻の誕生日でした。 **西沢功晋さん**
- ・今日は副会長挨拶を当てられています。緊張しています。 **吉木洋二さん**
- ・昨日、家族でプールに行きました。父親らしいことをちょっとはできたかと思えます。 **鈴木淑久さん**

米山功労者表彰

米山功労者となりました近藤茂弘さん・山口哲司さん・湯澤信雄さん・湯澤勇生さんに認証状が高須会長より贈呈されました。



ポールハリスフェロー表彰

ポールハリスフェローとなりました近藤茂弘さん・山口哲司さん・湯澤信雄さん・湯澤勇生さんに認証状と襟ピンが高須会長より贈呈されました。



ポールハリスソサエティ表彰

ポールハリスソサエティの高村博三さんに襟ピンが高須会長より贈呈されました。



会員67名 出席46名 (出席計算人数51名)

出席率 82.1%

8月18日は補填により 89.7%

幹事報告

馬場將嘉幹事

- ・本日13時40分よりヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて第12回地区大会実行委員会を行います。
- ・次週9月1日(木)13時40分よりヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて第3回理事会を行います。

卓話

市民キャビネット災害支援部長 松尾道夫さん

東日本大震災活動報告



皆さん初めまして。まずは東日本大震災に寄せてR12760地区より多額の支援金を頂き、厚く御礼申し上げます。

地震発生時の3月11日16時頃、私は埼玉県民活動センター(けんかつ)へ移動中でした。地震発生後にけんかつに到着し、会長をしている全日本救助犬団体協議会に出勤準備の指令を出し、目的

地は追って連絡する事として16時30分には被災地に向かって出勤させました。それと共に市民航空災害支援センター長の竹田さんにも連絡し、2グループに準備の指示を出しました。12日朝に入った気仙沼からの災害救助犬出勤要請に基づき、埼玉県の日本捜索救助犬協会が気仙沼に入ることになりました。国土交通省にも連絡を取り、緊急車両の通行許可証とヘリコプターの運用について話しました。12日の段階で竹田さんは赤城のヘリポートへ移動し、出勤のため準備態勢を整えていましたが、どこへ出勤したらいいのか判らない状況でした。13日早朝より救助犬は気仙沼市災害対策本部の指揮の下生存者捜索を開始しました。兵庫県の日本レスキュー協会が14日から岩手県陸前高田へ救助に入り、現地からは全滅という知らせが入りました。日本レスキュー協会が岩手県にすぐに入れたのは岩手・宮城内陸地震の時に出勤していたためです。出勤協定が結ばれている地域へはすぐに入りやすいのですが、出勤協定が結ばれていない地域へは「災害救助犬は出せるが、受入体制はどうか」とお伺いを立てなければなりません。しかしお伺いを立てているうちに担当者が分からなくなり、地域によっては殆ど機能なくなってしまいました。そのような課題を抱えながら13日から気仙沼へ災害救助犬を派遣し、緊急避難所への物資と人員の移送をヘリコプターで行いました。気仙沼に入ったヘリコプターは燃料切れで戻ってこれないので、当初は帰りの燃料を積んで飛んでいました。

活動の経緯の中でNPOの活発な地域ではNPOのネットワーク組織が自然発生的にでき、仙台では宮城教育大学の村上先生とワンファミリー仙台(炊き出しなどのホームレス支援を行う団体)の立岡さんが中心となり、仙台市を中心に炊き出しをし、そこに他のNPOが集まり『3.11NPO+』というネットワークができあがりました。そしてもう一つ物資支援活動のための大きな倉庫を持つ『宮城復興支援センター』というものができました。我々の拠点は埼玉・東京なので、現地のNPOと協力し、そこに対する支援を行うべきであるという考えがあります。ネットワークができた地域にはそこへ支援物資を届け、人員を派遣するという仲立ちを行いました。2760地区からの支援金の一部は、通常はステッカーとして使っている『つばさ号』という4tトラックで物資輸送を行うために使わせていただきました。SUGOサーキットの協力を得て、ヘリポートや支援物資の小分け輸送など、物資輸送の中継地点としてレース場のピットを使いました。岩手県では『遠野まごころネット』というNPOネットワーク組織と『いわてNPO連携センター』の2つの団体ができました。私どもは市民福祉団体全国協議会という福祉系ネットワークを中心とした『NPO支援・全

国プロジェクト』を設立し、仙台への支援をしています。福島では原発問題があり、NPOが自然に立ち上がるには厳しい地域でしたので、いわき市を中心に活動する『福島復興支援センター』の設立援助をしました。現在では現地のNPO団体と『NPO埼玉ネットワーク』、東京の『日本ユニバーサルデザイン震災対策チーム』、『NPO事業サポートセンター』、神戸の『被災地NGO協働センター』、西宮の『日本災害支援ボランティアネットワーク』など合わせて11団体がネットワークを組み、活動しています。

13日にヘリコプターで現地の最初の状況を見た竹田さんからその時の状況について話していただきます。

<市民航空災害支援センター長 竹田好孝さんのお話>

皆さんこんにちは。3月13日に初めて被災地にヘリコプターで飛んでいきました。気仙沼に向かって飛んでいくと、高台に避難する人を見掛け、小学校や病院、駐車場などあちこちに「SOS」の文字が書かれていました。目的地近くで高度を下げて飛んでいると、SOSと書かれた建物から人が出てきて、こちらに向かって手招きをしてましたが、目的地も決まっておらず、降りる許可もないので、どうすることもできず通り過ぎました。その時の目的地は1ヶ所だけでしたが、実際の被災地には目的地となるべき場所は沢山あり、降りることはできず手助けできない結果となりました。今回の教訓であると思い、今後準備をしていかなければならない事の1つでしょう。そして災害支援ではヘリコプターで情報収集をすることも責務ではないだろうかと感じました。

市民キャビネットは政策を提言する団体ですので、国土交通省と政策についてのお話をしています。「災害支援のためのファンドを作らなければいけない」と震災の前から言っておりました。今回災害支援のために活動していますが、お金の援助が全くなかったのが現状です。災害になり、出勤するときの費用をどうするのかという問題は昔から課題として言われていますが、これはボランティア全体の問題でもあります。災害時だけに使えるのではなく、災害の準備にも使える、使い勝手の良いファンドを作る必要があると提案しています。これに対して国土交通省からは私どもにファンドのための調査研究の依頼があり、現在は進めようとしているところです。被災で家や土地を全てなくされた方々が大勢います。土地に関してはグラウンドデザインができてくれば、元の土地や代替地は提供できるでしょう。日本赤十字を通して、義援金ももらえると思います。また、家を建てるには足りない分を借りやすい融資(3年間無利子など)や支援の方法を設けられれば良いと思っています。今回は2760地区から多大な寄付を頂きましたが、建設会社の方で協力していただけるようであれば是非一緒に活動していただきたいです。現在はパーソナルサポートとして国の予算でNPO団体が被災者を雇い入れる事業を行っています。ファンドについては中央労働金庫と信用組合のトップの方とお話をさせて頂いています。人材育成の面では以前から厚生労働省の基金訓練を利用して行っており、今回も訓練していた人材を使うことができました。資金面と人材育成の2点を併せ持つような新たな仕組み作りを行っていきたいです。

例会のご案内

■今週の卓話 9月1日(木)

会員卓話：馬場將嘉幹事

テーマ：クラブ計画書の説明

■次週の行事 9月8日(木) 職場例会

場所：リニア・鉄道館

■次々週卓話 9月15日(木)

卓話講師：豊橋ゴールデンRC副幹事

若林正治さん

豊橋ゴールデンRC新世代奉仕委員長

大林則久さん

テーマ：豊橋ゴールデンRCの新世代奉仕活動について